

大川原 ライフ LIFE²¹

2021年6月

大川原とは…大川原は福島県大熊町にある地区です。町は、2011年3月の東日本大震災に伴う原発事故により全町避難を余儀なくされましたが、2019年4月にこの大川原地区と中屋敷地区に限り避難指示が解除されました。大川原地区には新しく役場庁舎や公営住宅などができ、住人が日々の暮らしを再開しています。

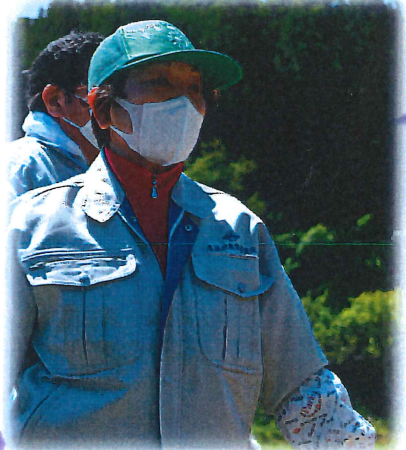
発行：大熊町大川原LIFE編集部 問合せ先：mirai@town.okuma.fukushima.jp



みなさん、こんにちは😊
 新緑の色も濃くなった
 大川原では、5月の連休
 明け、農業委員会による
 田植えがありました！
 晴天！だけど強風！の中、
 酒米「五百万石」の苗が
 植えられていきました。

私も、機械が入れない
 場所の手植えを初体験。
 水も土もあたたかくて、とても
 気持ち良かった〜。
 風に押され、田んぼに足を
 取られ…。初心者のかね
 かねの手植えの苗も、どうか
 ちゃんと根付いてくれます
 ように…。

大熊も 田植えの季節



農業委員会の根本友子さん

私が子どもの頃は「結」っ
 いて、近所の方が助け合っ
 てみんなで田植えしたの。
 子どもながらに朝4時に起きて
 苗の準備をして、終わったらみんな
 でごちそうをいただいて。
 お祭りみたいだった。人が集まる
 のが嬉しくて、わくわくした。



田植えのわくわく、
 私も少しだけ、
 味わえました！
 ありがとうございました。

裏面で試飲してみました!!



この田んぼでできたお米が、お酒「帰忘郷」になります。

今年度は昨年度の倍の収穫を！と根本さん。おいしいお酒ができますように!!

※ 昨年度の日本酒は数量限定の非売品。今年度からまちづくり公社で販売計画中です。

双葉郡は酒どころ!?

地酒の飲み比べ してみました

表面にて大川原での酒米の田植えを紹介しましたが、日本酒づくりをしているのは大熊町だけではありません! 今回、震災後に誕生した双葉郡内のお酒を飲み比べてみました。味の感想はあくまでも個人的なものです。気になるお酒は実際に飲んで確認してください。

楢葉町「楢葉の風」

醸造元は市街地でもある会津美里町の「白井酒造店」。辛口で芳醇な口あたり。風のようにキリッとしています!

大熊町「^{きぼう きょう}帰忘郷」

「会津娘」が代表銘柄の「高橋庄作酒造店」が醸造。クセがなくさわやか。一口飲めば会津への感謝と絆を感じます。

浪江町「親父の小言」

避難先の山形県で酒づくりを再開した「鈴木酒造店」が醸造。舌にピリリと残る酸味はまさにオヤジの小言のよう!?



広野町

「^{あひる}初代 鷺」

コシヒカリを100%使用した全国的にも珍しい純米酒。アヒルを水田に放して害虫などを駆除する栽培方法だとか。とにかく米の香りが豊か!

富岡町

「^{てん き}天の希」

県産オリジナル米「天のつぶ」を使用。町の未来を照らす希望の象徴として命名されたとのこと。上品でまろやかな味わい。飲みやすい辛口!

川内村

「^{かえるのうたげ}帰宴」

福島大学の学生も参加してつくられたお酒。甘口でフルーティーな風味。飲めばきっと村特産のイワナ料理が食べたくなくなります。

葛尾村

「だれすけ(辛口)」

ラベルのモチーフはふんどし!! サラッとして飲みやすく誰でも親しめる味わい。おちょこが進んでいい気分。気がつけばあなたもだれすけに!



日本酒大好き だーよし君

総評!
全部おいしい!!

どのお酒も特徴があり、こだわりを感じます

双葉郡のお酒はレベルが高い